

2025 年秋季（11～12 月）シラス漁況予報

水産技術センター
 2025 年（令和 7 年）11 月 18 日

今後の見通しのポイント

秋シラス（11～12 月）：低調であった前年を上回る。

1. 現在までの海況、漁況等の状況

(1) 海況

○水温（大阪湾、10m層）

大阪湾の 10m 層水温は、9 月以降は平年並み～やや高めで推移しています（図 1）。気象庁による 11～1 月の近畿地方における天候見通しでは、気温は平年より高くなる確率が 40%、平年並みとなる確率が 40%と予想されていることから、今後の水温は平年並み～高めで推移すると考えられます。

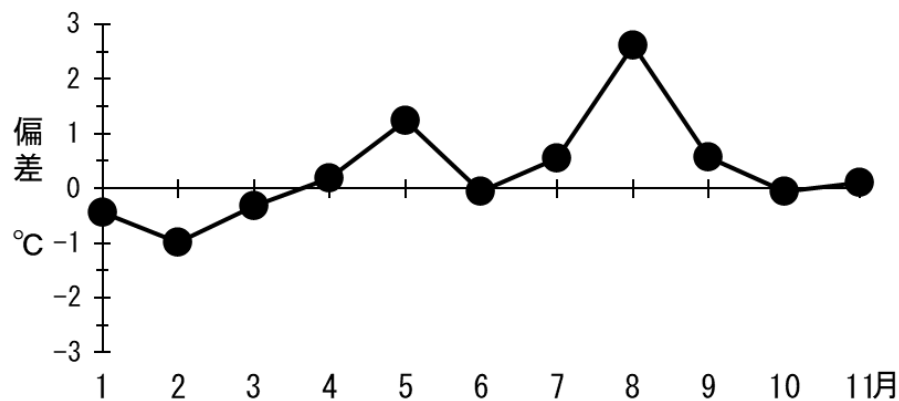


図 1 大阪湾の水温偏差（10m層、大阪湾 20 定点平均）

○黒潮（潮岬正南沖）

潮岬沖の黒潮は、2017 年の 8 月以降、それまでの接岸傾向から離岸傾向に変化しましたが、本年 5 月以降は接岸の兆候がみられています（表 1）。なお、気象庁は 2017 年 8 月から続いた黒潮大蛇行が、2025 年 4 月に終息したことを正式に発表しました。

表 1 潮岬沖黒潮の離岸距離

単位：海里（1海里=1852m）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2022年	176	156	150	166	174	154	218	158	165	139	145	146
2023年	171	190	188	126	195	191	171	145	145	100	119	104
2024年	93	115	136	121	99	95	85	96	133	109	119	136
2025年	160	189	118	108	73	41	49	54	30	20	20	

※本年11月は上旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

本年の大阪湾におけるシラス漁は、5月末以降に湾内発生とみられる群の加入があり、6月下旬まで前年同時期を上回る漁獲が続きました。しかし、6月下旬以降に漁況が悪化し、8月末まで低調な漁獲が続きました。その後、9月に入ってまとまった漁獲があり、11月上旬まで好調な漁獲が続いています。

本年のカタクチイワシ卵は、10月、11月とも主に大阪湾東部海域で採集され、10月はプランクトンネット1曳網当たり44粒、11月は68粒でした。これを平年、前年と比較しますと、10月は平年の489%、前年の129%、11月は平年の1700%、前年の680%で、両月とも平年、前年を上回りました。また、稚仔の採集数は、10月は平年、前年を下回りましたが、11月は平年、前年を大きく上回りました（10月は平年の15%、前年の38%、11月は平年の800%、前年の889%）。

[illegible][illegible]

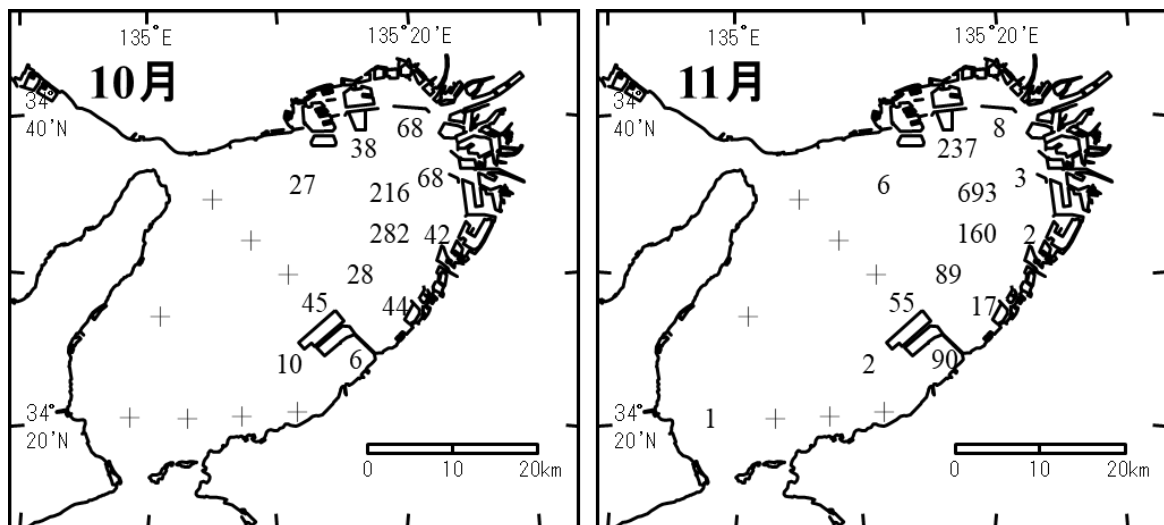


図3 カタクチイワシ卵の採集数（プランクトンネット1曳網あたり）
+は採集されなかったことを示す

2. 漁況予測

この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてから主漁獲対象になるまで1ヶ月と少しかかります。そのため9月後半から11月の卵の量と、この間の生き残りが本予報期間のシラスの漁獲量に大きく影響します。

本年10月、11月の大阪湾におけるカタクチイワシの発生量は、卵および稚仔の採集状況から全体として前年を上回る水準であると推定されます。さらに、10～11月上旬の漁模様や11月の稚仔の採集状況などから、生き残り条件は昨年比べて良い可能性があります。これらのことから、今後のシラス漁への加入水準は前年を上回ると考えられます。

以上のことから、本年秋季（11～12月）のシラス漁は低調であった前年を上回る漁況となるでしょう。